

てすぐれたものの発見と、指導助言の機会たらしめるため、つぎの行事をもった。

I 第十一回県総合美術展

会津若松市教委との共催。五五二点の応募。十日間の会期。鑑賞入場者二〇、〇〇〇名。

II 県美展巡回展

入選作品を中心として一四〇点をもって、二本松町教委、三春町教委の協力を得て巡回展を両町に開いた。

美術愛好者の両町の関係者はもちろん、一般近郊町村民のたくさんの方を観客を吸引して好評であった。

III 第十回県文学賞

県内の文学にたずさわる人たちの、一つの道標となってきた県文学賞は、今年は八十九点。

それに附随して青少年の文学活動をもりあげるねらいの「青少年文学奨励賞」に二十一点が応募された。後者の伸びが思うようでないのが残念。

IV 県合唱コンクール

全国的に名を高めている県内合唱団体の年一度の合唱祭典は、原町市で行い、五十団体二千人の参加があった。

審査員、建部有典（山形大）坂本良隆（島根大）山根一夫（関東合唱連盟）

なお、東北地区合唱コンクールは福島市で、山田和男らの審査で行わ

れた。

V 第十一回県演劇コンクール

東京、静岡とならんで活発に県演劇界の動きは、年々質量ともに隆盛をみている。

高校の予選に参加したものの四十校郡山市の県大会参加数二十団体。

平井博（福大）杉山誠、中村美代子町田裕（以上俳優座）の審査員各位の指導助言がそれぞれの団体に興えられた。講評としてあげられた点は、

- 1 商業演劇の模倣とならぬよう
- 2 脚本選定には注意
- 3 装置・照明・効果の研究

(2) 特に盛んになりつつある青少年の演劇活動を一層正しく発展させるためには、指導者の養成と、研究発表会とその実地指導が必要と考え、つぎの二つの集会をもった。

I 青少年指導者講習会

文部省、俳優座との共催により、飯坂町で開催、参加者一四〇名。

青年演劇のあり方についての理論と実技の講習会。

北条明直（文部省）田中千禾夫、千田是也、阿部広治（俳優座）の指導。

II 青少年演劇研究発表会

県内の三つの青少年演劇団体に研究会を委嘱し、それらの発表をかねて研究会を三市町で開催。県内すみずみまで正しい演劇活動の浸透をねがい、指導者の養成とをかねてねらいとした。

参加団体

白河市 四 七〇〇
喜多方市 三 五〇〇
浪江町 七、一、〇〇〇
創作活動を奨める一方、よい芸術にふれる機会を提供することも、芸術文化行政のうえでは忘れられてはならない。

(3) それが芸術を作る人たちには、一層の刺激となり、みる人たちには一層の理解を深め、ともどもに県内芸術界の振興向上に力となるからである。そのために行ったものをあげておく。

I ユネスコ世界名画複製巡回展（浮世絵・及ベルシア画）

白河市、会津若松市、三春町、常磐市、磐城市
IFMC混声合唱団移動公演会
平市
II 俳優座公演「タルチュフ」

昭和三十二年 重点を置く事業計画とその実施状況の概要

社会教育指導者の養成	計 画 概 要	実 施 状 況
<p>○ 青少年演劇指導者講習会</p> <p>対象 青年・一般・教員</p> <p>内容 青年演劇を中心とした素人演劇活動の正しい在り方を修得するため、</p> <p>○ 青少年演劇研究発表会</p> <p>対象 青年</p> <p>内容 青年演劇の上演と基本的な演劇の組み上げ方の研究会</p>	<p>文部省、劇団俳優座との共催</p> <p>婦人会館 6月13日~14日</p> <p>参加者 一六〇名</p> <p>開催地教委、県演劇協議会との共催</p> <p>白河市 33年2月15日</p> <p>参加者 八〇〇名</p> <p>喜多方市 2月16日~17日</p>	

福島市

IV 三期会県内巡回公演「明日を紡ぐ娘たち」
白河市、郡山市、本宮町、福島市、常磐市

V 文学座公演「鹿鳴館」（民友社と共催）

福島市
VI 明治・大正・昭和三代名作美術展（文部省、福島市と共催）

福島市
(4) 芸術関係の資料として次の印刷配付を行った。

I 青年演劇
青年演劇を作り上げるための基本的な事項と、青年の手になる創作脚本二篇とを収めたもの。五五頁五〇〇部

II 県文学集（第五集）
三十二年度県文学賞受賞作品を中心として収めたもの。六八頁五〇〇部